

平成19年度 東京都網代ホームきずな 事業計画

前年の概況

- 平成18年度より指定管理者となり、新たな委託契約が締結された。指定管理者の期限が5年間であり、その後は国立民営への移行が打ち出されている。来年度には23年度以降の東京都の方向性が示される予定であり、施設としても「きずな」の将来像を提案していく必要がある。
- ”きずな”の入退所者が例年に比し多く、12世帯33名が退所し、14世帯39名の新規入所者があった。入所理由は暴力が6世帯、住宅困窮が8世帯であった。乳幼児の入所は昨年続き、学童を上回っている。(乳幼児30名・学童20名)緊急一時保護事業は26世帯77名が利用した。理由は暴力が19世帯、住宅困窮が7世帯あった。昨年比で5世帯ほど利用が減少した。退所先としては母子生活支援施設・帰宅・アパート等の順になっている。
- 景気が若干好転し、就労環境もよくなったため、支援を続けたところ、パート職ではあるが33名中27名81%の母親が就労している。生活保護もできるだけ辞退に務め受給は全額3世帯、一部13世帯と受給率が低下した。
- 自立支援計画をもとに職員間での話し合いができていなかった。

今年の重点ポイント

- 職員の支援の一体性の向上＝適正な役割分担。
- しっかりした自立支援計画の策定
①課題の明確化②自立目標時期の明確化③心の安定
- 利用者が、安全で、安心して自立を目指すことのできるようなハード及びソフト面の充実
- 就労支援＝経済的自立＝生活保護受給率の引き下げ
自立への意識向上に向けた支援
- ボランティアの力の活用
- 地域関係機関との連携及び地域に支えられた施設
- 母子支援の原点に立ちかえっての支援

全体を通した考え方

家庭内暴力、虐待、離婚による住宅困窮借金、またそれに伴う心理的不安、心の傷等 日常生活上さまざまな課題、困難を抱え入所している。そのような母子の主体性を尊重し、利用者自身が、課題を意識し、意欲的に挑戦できるように支えていく。そのために、きずなの職員だけでなく関係機関、ボランティアをはじめとする地域の方々と連携していく。
また、子どもは子どもらしく、恵まれた自然を満喫し、明るく、元気に、のびのびと育つように、心理的ケアをしながら援助する。

課題

- 今後の民間委譲化についての課題の検討、計画の作成
- 職員の役割分担と連携の確立
- 人材育成 特に新人職員の計画的育成
- 必要な支援時間の確保
- 利用者こころのケアを充実させるため、心理ケア、相談体制の充実。また外部の心療内科、専門機関との連携。
- 職員の専門性の向上及び関係機関（児童相談所、学校、保健所、民生児童委員等）と連携した支援体制の充実。
- ”きずな”の属性、地域を生かし、緊急一時保護事業の充実
- ボランティアの育成。
- 母子生活支援システムを活用し、連携した総合的な支援体制の構築

運営管理

- 母子生活支援施設”きずな”の今後のあり方について提案する。
- 業務分掌を見直し、より効率的な業務執行体制とする。
- 報告・連絡・相談を徹底し、利用者支援を充実する。
- OJT、チャレンジシートを活用、人事考課等により職員の意欲の向上を図り、また自己能力開発目標を明確にもち、日々研鑽する。
- 自主評価、第三者評価結果を基に職員全員で改善する。
- 職員の心のケアを図る。
- 日常的な注意の目及び定期点検を実施し、安心して暮らせる生活環境を提供する
- 利用者のプライバシー保護、情報管理体制の徹底を図る。

母親に対する支援

- 利用者、きずな、母子自立支援員の三者連携による自立支援計画の策定及び見直しを定期的にするとともに退所に対する不安解消及び一貫した継続的支援をする。
- あきる野市の生活保護担当、ハローワークの就労コーディネーターと協力し就労促進を積極的に推進し、経済的自立への支援を進める。生活保護受給率の引き下げを目指す。そのため保育を充実する。
- 心理専門職を中心とした「こころのケア」体制を充実する。
- いつでも、気軽に相談できる雰囲気、場を提供する。

乳幼児に対する支援

- 基本的な生活習慣（食事、手洗い、排泄等）の習得や仲間を思いやり、仲良く遊べるように保育する。
- 相手の顔を見て話が聞けるようにする。そのためお話の読み聞かせ会をする。
- 必要に応じ登園下園前後の保育、延長保育、病児保育、日祭日保育をする。
登園前8:00～ 下園後～19:00 日祭日9:00～19:00
- 恵まれた自然環境を生かし、感情の表出が豊かにできる心が育まれるようにする。
- 周囲の愛情を十分に感じた生活ができるようにする。

学童に対する支援

- 基本的な生活習慣の獲得支援、指導（衛生、片付け、挨拶）をする。特にあいさつがしっかりできるようにする。
- ドッジボール、野球など集団のゲームでしっかりと汗をかき、また集団を通じて仲間や相手を尊重し、協同して目標に立ち向かう精神を養う
- こころにトラウマを抱えている学童に対しては、心理専門職と共にこころのケアをする。また、長所をしっかりとほめ、自分に自信が持てるようにする。
- ボランティアの力も借り、周囲の自然環境に親しみ、楽しめるように指導する。
- 下校後、長期休み期間中の学習指導をしっかりと学力のレベルアップを図る。
- 遊び、勉強等生活時間等しっかりとしたけじめがつけられるように指導する。

地域関係

- 自治会、子ども会活動等を通じ、網代地区、あきる野市に溶け込んだ活動を展開する。
- 地域関係機関（学校、保育園、民生児童委員、あきる野市子ども家庭連絡会議等）に対する情報発信、及び地域情報の収集より充実させる。
- 緊急一時保護事業を通じ、DVからの保護を行い、児童生活環境の改善の出発点となるような活動をする。
- 納涼祭、どんど焼き等の行事を通じあきる野の伝統行事の担い手となる。
- あきる野市やあきる野市社会福祉協議会と連絡を密にし、地域福祉活動に積極的に参加していく
- 地域の高齢者の力も積極的に借りていく。